

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」  
【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

開催日：令和 8 年 6 月 29 日（月）

会 場：上越文化会館 中ホール

参加者：35 人

**（参加者）**

地域独自の予算事業の見直しについて、市長の説明では、地域自治区ごとの配分とし、世帯数に応じて予算額を決めるということでした。地域協議会ができた当初は、配分された予算額を全額使い切る状態でしたが、私が地域協議会に携わるようになってからは、市の財政状況のことも考えて余った予算は市にお返ししていました。

13 区ではいろいろとやることがあると思います。世帯数に応じた配分になると今までより予算額が低くなると思うのですが、そのあたりはどのようなお考えですか。

**（市長）**

基本的な配分は、例えば人口や世帯数に応じて考えていきたいと思いますが、過不足については柔軟に対応したいと思っています。そこを大きく変えたいと思っています。余ったら返還してもらいますし、足りないところは全額とはいかないかもしれませんが、皆さんの要望や計画を活かせるように、できるだけ柔軟に対応できるよう検討しております。

**（参加者）**

少子化対策が見えてこないことを懸念しています。少子化は、今の日本が抱えている大きな問題の一つだと思っています。以前、新聞で「上越市は妙高市に比べて子どもの医療費の対応がやや遅れているのではないか」という記事を見ました。職場で 20 代、30 代の若い保護者から「子育てにお金がかかる」「2 人目、3 人目の子どもが欲しくても、経済的負担が大きい」といった声を聞きます。「2 か月に 1 回もらっている児童手当を毎月支給して欲しい」との声も聞きます。少子化対策のために市長が考えている施策があれば教えていただきたいと思います。

**（市長）**

少子化は非常に大事な問題ですので、全力で取り組んでおります。取組の中心は、若い人や若い夫婦への職の提供と定着の促進、そして子育て支援です。乳児期から幼児期に至るまでの子育て支援は、これまでも取り組んでおり、支援の水準は非常に高いと思います。小学校では給食費の無償化を行っています。中学校・高校の医療費や給食費の問題がありますが、中学校の給食費については、現在国が進めようとしているので、それに合わせて対応していく必要があると思っています。中学生や高校生の医療費がどれほど負担になっているか、シンボリックには非常に大きいですが、実際に額はそれほど多くありません。

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」  
【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

ん。現在は、限られた予算で学校の環境の改善を進めています。トイレの改修やエアコンの整備を中心に進めています。小学校や保育園についても同じです。保育料についても無償化の要望があります。予算があれば実施しますが、保育園で冬場に赤ちゃんが快適に過ごせる環境や清潔なトイレ、ホールエアコン整備を重点的にやっております。

**（参加者）**

少子高齢化の話がありましたが、私が一番問題だと思うのは若い人の定着率が低いことです。東京の大学へ行ってしまうと、ほとんど帰ってきません。結婚の機会がなかなかないということです。企業をいかに誘致して上越市を活性化させていくかが最大の課題だと思っています。具体的には、直江津港には火力発電所がありますので、電力を使ってデータセンターを誘致してはどうでしょうか。また、メタンハイドレートはこれから日本にとっての新しい資源になると言われていますが、メタンハイドレートの基地を直江津港に誘致するなど、取組を進めていただけないかと思います。

**（市長）**

経済的基盤を整えることは市の重要な仕事だと思っています。その基盤があつてさまざまな施策ができるわけです。直江津港はまさにエネルギー基地です。そこを利用してデータセンターを誘致することは、市も考えています。ただ、採算性などの問題で、市の希望に応じて企業がすぐに進出するわけではありませんが、その方向で努力はしています。環境として優位性があると思いますし、進めたいと思っています。

メタンハイドレートは、まだ採算性が不明ですので、今の段階で市が誘致するというのは現実的ではないと思います。ただ、可能性としては大きいものがあると思います。今、国では地域未来戦略ということで 17 項目の戦略分野を選んで動き出しております。県の項目、それから各市町村が担うべき項目が下にあるのですが、その中でエネルギー産業や IT・AI 産業をぜひ上越市に誘致したいと思っています。また、コールセンターを整備すれば雇用面で人数が確保できるといったアイデアもあります。エネルギー分野やハイテク分野、フードテックも 17 項目の中に入っています。それらを考えて進めていきたいと思っています。

**（参加者）**

データセンターについては、私も上越市が適していると思います。直江津港の火力発電所もそうですが、隣の柏崎市の原子力発電所が再稼働したので、そちらから電力は確保できると思います。候補地としては柿崎区の住宅メーカー工場の跡地が適していると思います。柏崎市と上越市が協力して進められれば良いと思います。

**（市長）**

データセンターで電力を使うということになれば、直江津港周辺の発電施設などによ

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」  
【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

り、電力供給面での環境は整っていると考えています。ただ、課題は企業が採算を取れると見込んで上越市に進出してくれるかということです。もちろん、市としてもいろいろな優遇策や用地面でのサポートを行い、企業誘致に取り組んでいきたいと思っております。

**(参加者)**

メタンハイドレートについては、何とか開発が進んでいけばよいと考えています。日本近海の海底には、大量のメタンハイドレートが存在すると言われていています。上越市の人口は減少しており、現在の行政サービスや、地域コミュニティ、地域の活力などを維持するためにはメタンハイドレート関連企業や発電所の誘致も必要だと考えています。

また、観光面では、南葉山の頂上から佐渡のドンデン山（タダラ峰）までロープウェイをつなげて観光資源にすることを提案します。

そして、陸上競技場は、世界記録が認定できる機能を有する施設に改修していただきたいです。

さらに、高田城址公園野球場をプロ野球規格の野球場に格上げしていただきたいです。市内への大きな経済効果が見込まれます。

そして、今上越市には3,000軒の空き家があります。これを上越市が買い取って、1千万円ほどかけて、医師免許を持った人を呼び寄せ、長く上越市で勤務していただけるならば家をそっくり差し上げる、という支援を行えば人材不足の解消につながると思います。

また、企業を誘致するためには、南部工業地帯の整備を行う必要があります。上越市は港もあり、新幹線も通っていて、東京から約2時間です。本州の中心に近く、地形的にも恵まれています。環境を整えて、若い人たちが上越市に戻ってくるような職場を用意しなければ、人口はどんどん減っていきます。ぜひ働ける場を作って、若い人が帰ってくるようにしてください。

**(参加者)**

少子化対策、人口減少対策については、新潟県の賃金が低いことが課題と感じています。賃金が低いと、首都圏の大学に進学してそのまま東京で就職し、帰ってこないということに繋がると思いますので、行政と企業が連携して、賃金水準の向上に取り組むべきだと思います。

少子化については、全国的に少子化が進んでおり、すぐに改善することが難しいのが実態です。減少の速度を遅らせるには、先ほどの交流人口を増やすことや、U・I・Jターンで戻ってくる人を増やしてカバーしていくことだと思います。また、観光を通して上越のファンになってもらい、移住・定住に繋げるような仕掛けをすれば、減少の速度は多少緩和されるのではないかと思います。こうした取組を行い、上越へ戻ろう、新潟へ戻ろうという気持ちになってくれればよいと思います。

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」  
【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

**（参加者）**

少子高齢化や人口減少が進んでおり、町内会についても役員の担い手不足や戸数の減少が年々進んでいます。これから町内会の維持が非常に大きな問題になるのではないかと考えていますが、町内会の合併支援について支援策はあるのでしょうか。

**（参加者）**

少子化に関連して質問させていただきます。今、上越市には不登校の生徒が 600 人くらいいると聞いています。せっかく授かった子を大切に育てても、その子の特性や環境で学校に馴染めない子がとても多いと、全国的にも聞いています。この春から学びの多様化学校も開校していただいて、それはとてもありがたいのですが、安塚区のやすづか学園は 30 年前からあり、フリースクールの先駆的な存在です。しかし昨年、体制が変わったことで園内が少し乱れてきたといえます。昨年 9 月には、在校していた生徒が行動を起こし、要望書を市の福祉課に持参したそうです。市長に渡っているかどうか分からない、ということでした。返答もなかったので、12 月にやすづか学園の在校生や卒業生、保護者が署名活動を行い、学園の体制を変えてほしいと市長宛てに要望を出したそうです。しかしそれも市長に届いていないのではないか、ということで子どもたちが非常にショックを受けていると聞きました。不登校の生徒だから勉強しなくていいわけではなく、そこから高校に進学するためにしっかり勉強もしたいけれど、あまり受け持ってもらえないという話があり、保護者会を初めて開催したそうですが、それも曖昧な感じで終わったということです。ぜひ市長や市議の皆さんに一度やすづか学園を見学していただき、どんな状況で運営されているのか確認してほしいです。不登校の子に対して開かれた場所ではありますが、運営面やそこで起きていることは閉ざされていて分かりづらい状況だそうです。多様な学びと言いますが、果たしてどこまで市にうまく伝わっているのか疑問です。悩んでいる保護者が非常に多いので、ぜひ一度皆さんで見に行っていていただき、現状を確認してほしいです。そして、子どもたちが集めた署名がどこに行っているのか調べてほしいです。

**（市長）**

やすづか学園については、教育委員会がコンタクトを取っております。署名がどこに行っただかは調べます。

**（参加者）**

少子化対策として人口を増やそうという話がよく出ますが、この流れを変えるのは難しいと思います。少子化を受け入れて、町内会が自分の家族だと思えるような、心のこもった家族的な付き合いができる町内会にすれば、孤独死なども防げるのではないかと考えています。ただ、町内会自体がなかなか動かないので難しい面はあります。少子化を受け入れて、家族的に関わって、温かくて笑顔になるような町内会にしたらいいのではないでし

## 市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

ようか。

日本海側に大きな企業が来ることは難しいです。視点を変えて進めてください。

### （参加者）

今ほどの意見と同じように、少子化は避けられないと思います。産業にしても何にしても、上越市は魅力ある市ではありません。先ほどメタンハイドレートという話がありましたが、30年、40年経たないと採算は取れないでしょうし、環境問題などもあります。市長にお聞きしますが、企業誘致をすればある程度少子化が止まるのではないかと多くの方が言っています。市長はU・Iターンをする人たちのために、どのような企業を誘致すればよいとお考えでしょうか。

### （市長）

いろいろご意見をいただきました。少子化については難しい問題です。先日、花角知事がこちらに来られたときにおっしゃっていましたが、今のまま何も手を打たなければ2100年には新潟県の人口が100万人程度に減少するのではないかとということです。現在の人口から半減するということになります。上越市の人口もご承知のとおり、毎年2,500人ほど減っています。今後、急激に反転して増えるということは現実的にならないと思います。そうすると、今後の対策として、いかに人口減少のスピードを遅くするか、そしてその中でいかに私たちの生活水準を維持するかが重要だと思います。少子化を防ぐこと自体が目的ではありません。少子化が問題なのは、その結果として私たちの生活が成り立たなくなるためです。例えば、町内会が成り立たなくなったり、高齢者が一人で暮らせなくなるといったことです。そういった影響が困るということです。他の市町村と取り合いになってはいけませんが、できるだけ上越市の魅力を高める必要があります。具体的には、きちんとした就職先を提供することです。若者にとって魅力のあるIT・AI企業、いわゆるリモートワークなど、都会にいてもここで美しい自然環境を享受しながら仕事ができること、それから女性が働きやすい仕事を整えることです。先ほど申し上げたコールセンターなども、その一例だと思います。いわゆるリスキリングや新しい技術を身につけてもらうことも必要だと思います。

観光は生産額としてはそんなに大きくありませんが、ここに住んで自分たちのふるさとに誇りを持って過ごしてもらうという面からは、力を入れていきたいと考えています。先ほど交流人口の話が出ましたが、最近の新聞記事で、三和区、清里区、板倉区、牧区で「農泊」という言葉を使っているのを見ました。農家に泊まって実際の生活を体験してもらい、そこから移住に繋がる人が出てくるかもしれません。そうした取組が大事であり、現在、市でもどんな交流事業があるのか調べています。そういった取組には、できるだけサポートしていきたいと思っています。人口が少なくなった場合の対処については、町内会の回覧をウェブ化するなどの対応が考えられます。また、市からお願いしている業務の見直しや削減、あるいは将来的には市が事務局の仕事をする人材を支援することも検討していいのではないかと

## 市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

と考えています。各町内に一人ずつというわけにはいきませんから、市役所内で事務局的な役割を担う体制を整える必要があると思います。町内会に限らず、中山間地域は特にそういう問題が大きいと思いますので、地域を支える人材に対して市で報酬を支払い、派遣するというものも考えなくてはいけないと思っています。

また、賃金については、市が企業の時給を決めるわけにはいきませんので、できるとすれば勸奨を進めるということと、企業内の生産性を高めてもらうということだと思います。市ではいわゆるデジタルトランスフォーメーション化や省エネ化などに対する補助金を、今年度の補正予算でも計上しましたので、そうした取組で企業の生産性を高めるサポートをしています。生産性を高めるというのは、さきほどの人口減少に対する最も有効な手段の一つだと思います。例えばロボットや AI、ドローンを使うことは、今後非常に効果的と考えています。人口減少が進んで企業の人手が足りなくなっても、事務面では大いに助けになると思います。ただ、問題は現場です。例えば、建設現場でドローンがすべてを代替することはできません。どうしても人が携わらなくてはならない場面はあると思います。

夢物語かもしれませんが、日本語学校があればいいのではないかと考えています。実際に新設するのは難しいようで、認可の問題や先生の確保、外国から雪国に来てくれるかなど、いろいろ問題があると思いますが、外国の若い人がここに来て、地域に根付く場があって、その後上越市の企業に就職してもらおうといったことも考えたいと思っています。

### （参加者）

福祉交流プラザのグラウンド・ゴルフ場についてですが、グラウンド・ゴルフをする環境ではありません。グラウンド・ゴルフをするため芝生を張り替えてもらいたいです。芝生を張っても成長するのに1、2年かかります。先日、富岡野球場でシニアの春のグラウンド・ゴルフ大会を開催しました。野球場は比較的空いていると聞いており、芝生のスペースを利用すれば8ホール・3コートを設定することができます。常設で3コートを整備し、利用料を徴収する運営方法も一案だと思います。福祉交流プラザのグラウンド・ゴルフ場は、現状では名前だけのものになってしまっているため、何らかの対応を検討していただきたいです。県内には公認コースを備えた自治体もあります。公認コースがあることで大会での実績にもつながっており、上越市でもグラウンド・ゴルフをみんなで盛り上げていくために、環境整備をぜひご検討いただきたいと思います。

### （市長）

現状をよく確認して対策させていただきます。

### （参加者）

先日、金谷山の活性化について話し合っている際、市の担当者が地域の施設の現状を説明

## 市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」 【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容

していただきました。金谷区には BMX、スキー場、ボブスレーの施設がありますが、収益、売り上げが約 300 万円くらいだそうです。それに対して、昨年度かかった修繕費や人件費、整備費、草刈り代などが約 7,000 万円だそうです。かかった経費については、令和 2 年度からのデータを示していただいたのですが、令和 2 年度は 4,000 万円、その後 5,000 万円、6,000 万円と毎年上がり、令和 7 年度が 7,000 万円でした。今後リフトの更新などが必要になり、必要経費がさらに増えていくのに対して、利用者数はずっと減り続けています。今はリフトの稼働日も約 10 年前の半分くらいです。上越市民がほとんど利用していない施設に、約 7000 万円かけて収入が約 300 万円というのはいかがなものかと思います。企業誘致で収入や税収を増やすことは大切ですが、支出も絞らなければいけないと思いました。また、ヨーデル金谷の説明に来られた時もありました。ヨーデル金谷は駐車場も建物も全部市の所有です。市がすべて整備して作り、バスも購入し、食器まで購入しています。毎年、そこで働いているスタッフの人件費と光熱費を負担すればいいだけです。上越市に建物を借りているのでお金を払っているものだと思ったら、逆に指定管理制度で 1000 万円のお金をもらってあそこを運営しているのです。そんなこと考えられるでしょうか。2 つの施設だけでそれだけの赤字を出しているわけです。ヨーデル金谷は平成 11 年に運営を始めてからもうすぐ 30 年が経ちます。毎年平均 1,000 万円なら、もう 3 億円使っていることになります。こういうことを放置して、あれもやる、これもやるというのは無理だと思います。利用者が減って本当に赤字が続いているようなところは、残念ですが閉鎖するなどの対応も必要ではないかと思います。

### （市長）

ご指摘の問題はまさにそのとおりで、現在、温浴施設や委託施設をすべて見て回っています。金谷山やヨーデル金谷の問題についても承知しています。

一方で、特に地元の皆さんを中心に、例えば金谷山であれば「ここは日本スキー発祥の地だ」として、守っていきたいとのご意見もあります。温浴施設でも地元の皆さんが残してほしいと言っておられる施設もたくさんあります。今後残せるのかは、財政の健全化の観点から見直さなくてはならないと思っており、まさに現在検討しているところです。ただ、全部を簡単に廃止してよいのかという問題があります。地元の皆さんの健康、誇りといったいろいろなご意見がありますので、よく相談をしながら納得していただいた上で、廃止するなら廃止するということで進めていきたいと思っております。

### （参加者）

新道区には公共施設が一つしかありません。令和 8 年 3 月に芙蓉荘が廃止になり、新道区の皆さんが集まれるのは新道地区公民館だけです。公民館は、駐車場も狭いです。謙信公武道館の周りは広々しているので、そこに建ててほしいと思っておりますが、当然無理だと思います。7 月の地域協議会では、芙蓉荘をいつ除却するかという話をすると思いますが、そ

**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」  
【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

の後の土地をどう活用するかはまだ決まっていないそうです。そこに新道区の公共施設を建ててほしいというのが私の願いですが、難しいのであれば他のところに建ててもらいたいと思っています。なるべく早く検討していただいて、除却後の土地をどう活用するのかお聞かせいただきたいと思います。

**（市長）**

新道地区公民館については、駐車場の陥没箇所を直してほしいという要望があると承知しています。それは今年度直す予定で、費用の見積もりも行っています。花壇を撤去してほしいという要望も承知していますが、これは来年度以降の予算の中で対応を検討しています。新しく建ててほしいという要望は承知をしておりません。

**（参加者）**

数年前に本町6丁目で火災がありました。本町には高田小町や瞽女ミュージアムなど、観光客が訪れますが、被災した建物がまだ撤去されていません。観光客は、この町はどうなっているのか、何にもせず放置してきちんと管理できているのか、と感じると思います。現状はどうなっているのでしょうか。

**（市長）**

担当課から説明を受けており、近々対応します。撤去することは決まっています。当該地については、いろいろとご意見をいただいています。

**（参加者）**

市民相談センターについてですが、昨年、町内会の代表として困りごと相談で市民相談センターに伺ったところ、町内会は地縁団体のため相談に応じることができない、と門前払いのような対応でした。町内会の窓口である、地域政策課に相談しましたが、結果的に市民プラザで行っている有料の弁護士相談で対応したところです。その後、市民相談センターに確認したところ、市民相談センター事業実施要綱があり、相談者は市民に限定しているため、町内会の相談には応じられないということでした。町内会の住民が個別に相談に行けば応じてもらえるとのことですが、町内会全体の問題として、町内会の代表の相談には応じてもらえないという状態です。相談者を市民に限定する何か理由があるとは思いますが、町内会からの相談対応についても検討していただきたいです。

**（総務部長）**

市民相談センターでは、ご意見のとおり市民からの一般相談及び弁護士相談等を受け付



**市民と市長との対話集会「スマイルミーティング」**  
**【中部まちづくりセンターエリア】意見交換の内容**

けています。市民相談センターでは、法人からの弁護士相談等はお受けできないため、法人格をもつ認可地縁団体である町内会のご相談をお受けできなかったものと思いますが、その対応において、不快に感じられる場面がありましたらお詫び申し上げます。職員の接遇については、より丁寧な対応に努めてまいります。

また、町内会を所管する地域政策課で相談についてどのように対応し、弁護士相談を促したのかは気にかかります。次にそのような相談があった場合は、より親身になって対応をするよう担当課に伝えたいと思います。

**（市長）**

調べさせていただきます。対応については失礼しました。

※このほか、当日会場でお預かりしました意見や提案につきましては、担当課に共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。